

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



# 公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol. 21

2014.5  
Spring  
春号



看護専門学校9期生卒業式・謝恩会

## 新たな一歩

卒業を間近に控え看護専門学校での学生生活を振り返ると、たくさんの辛かったことや楽しかったことが思い出されます。医学・看護の知識のない私たちに一から教えてくださった先生方、臨床現場でご指導していただいた実習指導者さん、臨床の看護師さん、未熟な私たちを温かく迎えて下さった患者さん、すべての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。ピンクの看護服ではなく、憧れの白色の看護服を身にまとい4月から新たな一歩を踏み出します。笑顔を決やさず、患者さんを第一に考え寄り添うことのできる看護師になりたいと思います。

(公立南丹看護専門学校卒業生 北阪 ちなみ)

臨床研修指定病院 京都府がん診療連携病院 救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院 へさ地医療拠点病院  
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター  
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院  
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター DMAT指定医療機関

## 公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地  
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096  
<http://www.nantanhosp.or.jp>



梶田 芳弘総長(前院長)の突然の御逝去に際し、謹んで心よりお悔やみを申し上げます。長い闘病生活を送られながらも、先生は医師として患者さまと南丹病院のために命の炎を燃やされ続けました。その強い思いに接し、御回復を心より願っておりましたが、このたびの訃報をお知らせすることとなり、痛惜の念もひとしおでございます。御家族様のお悲しみはいかばかりかと察しております。先生から賜った幾多の御厚情を思い、梶田総長のこれまでの御経歴、御業績をご紹介させて頂き、故人を偲びたく存じます。心から哀悼の意を表し、御冥福をお祈り致します。

公立南丹病院院長 辰巳 哲也

かじた よしひろ

梶田 芳弘 昭和22年9月22日生まれ

## 学 職 歴

昭和48年3月 京都府立医科大学卒業  
 昭和48年5月 京都府立医科大学附属病院 研修医  
 昭和50年4月 公立南丹病院 内科医員  
 昭和52年4月 京都府立医科大学附属病院 修練医  
 昭和54年1月 公立南丹病院 内科医員  
 昭和54年3月 京都府立医科大学附属病院 修練医  
 昭和55年4月 公立南丹病院 内科医長  
 昭和58年9月 英国ウェールズ大学医学部 内科研究員  
 昭和59年9月 公立南丹病院 内科医長  
 平成元年4月 公立南丹病院 診療部長  
 平成6年10月 公立南丹病院 副院長  
 平成8年4月 公立南丹病院 院長  
 平成25年4月 京都府立医科大学 特任教授  
 平成26年4月 公立南丹病院 退職  
 平成26年5月 公立南丹病院 総長(顧問)

## 受 賞

平成17年9月 全国国民健康保険診療施設協議会会長表彰  
 平成17年11月 救急医療功労京都府知事表彰  
 平成20年10月 公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰  
 平成22年11月 全国国民健康保険診療施設協議会創立50周年記念会長特別表彰  
 平成25年5月 全国自治体病院協議会創立60周年記念会長表彰

## 学会および社会的活動・功績

昭和61年6月 日本内分泌学会評議員  
 昭和61年10月 日本甲状腺学会評議員  
 平成11年6月 京都府国民健康保険診療報酬審査委員会委員  
 平成15年4月 京都府国民健康保険診療施設協議会医療担当者部会副会長  
 平成16年6月 京都府立医科大学高血圧腎臓内科臨床教授  
 平成17年5月 日本核医学会評議員  
 平成19年4月 京都府病院協会副会長  
 平成19年5月 全国自治体病院協議会京都府支部長  
 平成22年2月 日本医療マネジメント学会京滋支部学術集会会長  
 平成23年4月 京都府病院協会会長  
 平成24年4月 京都府国民健康保険診療施設協議会会長

その他、当院への放射線治療機器誘致など、地域で救急医療、がん治療、周産期医療など高度医療、地域包括医療の最終拠点病院としての発展に多大な貢献をされて来られました。

平成26年5月19日 ご逝去。 合掌。



# 公立南丹病院広報誌

## 病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。

このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

2014.5

Vol.21

春号

## CONTENTS

- 就任のご挨拶 ..... ①
- 就任のご挨拶 ..... ②
- 退任のご挨拶 ..... ③
- 赴任医師のご挨拶 ..... ⑤
- 診療科紹介[内科系]-血液内科 ..... ⑦
- 診療科紹介[外科系]-耳鼻咽喉科 ..... ⑧
- 公立南丹看護専門学校 ..... ⑨
- 「37年間を振り返って」 ..... ⑩
- 「第91回 救急活動事例研究会」のご報告 ..... ⑪
- 平成25年度「第3回 緩和ケア講演会」 ..... ⑫
- 「第3回 公立南丹病院 緩和ケア研修会」 ..... ⑫
- 近隣の連携医療機関の先生方 ..... ⑬
  - ふじわら小児科内科医院
  - 鎌田整形外科医院
- 就業フェア ..... ⑭
- 「認知症疾患医療センター」に指定されました ..... ⑭
- 初診時の選定療養費改定のお知らせ ..... ⑭
- 公立南丹看護専門学校 オープンキャンパスのお知らせ ..... ⑮
- 看護師・助産師募集 ..... ⑮
- 編集後記 ..... ⑮



## 就任のご挨拶

院長 <sup>たつみ</sup>辰巳 <sup>てつや</sup>哲也

このたび平成26年5月1日付で公立南丹病院の院長に就任させていただきました。南丹病院はその開設以来、78年間の歴史を誇るこの広大な南丹医療圏唯一の公的総合病院です。長年にわたりこの地域の医療と南丹病院の発展に尽くされてこられました梶田芳弘前院長（現総長）のあとに院長職を拝命し、身が引き締まる思いでございます。



今後、日本は超高齢化社会を迎え、医療・介護・福祉などの社会保障制度が大

きく変わっていく時代となります。このような変革を迎えつつある中で、南丹病院はこの医療圏における地域住民の皆様の生命健康を守るために、急性期疾患を中心とした最終拠点病院である役割を担いつつ、地域の中核病院としての発展を遂げていかなければならないと考えています。

そのためには、1) 患者さん中心の医療と地域に愛される病院づくり、2) 医師・看護師・事務職などの人材確保と教育体制の整備、3) がん診療体制・救急医療体制・認知症対策を含めた診療機能のさらなる充実、4) 健全な経営基盤の確立と業務改善・効率化、5) 医療連携の強化による地域医療への貢献、6) 拠点病院としての指定・施設基準の充実と時代に即した組織の整備、7) チーム医療・医療安全対策の強化、8) 優秀な人材の確保と育成を通してのマグネティズム（定着）の強化、9) 働きがいのある職場作りと人材の適正配置など病院の今後の目標とその戦略を明確化し、職員が将来ビジョンを共有して病院整備に取り組んでいきたいと考えています。

特に今年は診療報酬の改定・急性期病床の再配分、DPCを通じた医療の可視化推進など医療改革が大きく転換する年になると思われ、南丹病院も制度改革に迅速かつ適切に対応していかなければならないと考えます。

私はまだまだ経験に乏しいですが、皆様のご助言をもとに熟慮断行し、南丹病院のさらなる発展のために全身全霊で働かせていただきますので、皆様方のご理解と温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

## 就任のご挨拶

総長 <sup>かじた よしひろ</sup> 梶田 芳弘

### 平成26年5月1日付で梶田芳弘前院長は 公立南丹病院総長に就任しました

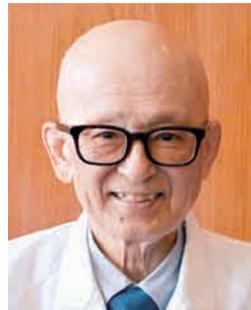
今年の4月には、桜観賞を兼ねて過去に英国ウェールズ大学で留学した仲間の集まりが京都で開かれ、私が世話人を務め、参加者の年齢は様々ですが、留学生生活を思い出す楽しい一時がもたれました。入院生活を経験された方も、同室の患者さんと退院後友人関係に至る方も多くおられます。これは、同じ苦労や悩みを共有されているからです。

私も平成24年5月に腹部の腫瘍切除術を受け、現在も治療を継続しているがんサバイバーの一人です。20ヶ月に及ぶ化学療法の継続により、徐々に増強する強い両手、両足のしびれ、下痢、味覚異常、倦怠感など化学療法の副作用に苦しんでいます。この副作用を知らず、患者さんに漫然と治療を行っていた事を今反省しています。医師になって初めて、がん患者さんと病の苦しみを心から共有することができました。

病院の職員の全てが、その苦しみを共有できなくても、患者さんの病を理解し患者さんに温かく優しく接する。入院するなら南丹病院でしたい。そんな病院となるのが私ども公立南丹病院職員の夢です。ハード面では来春には放射線治療機器が整備される事が決まっています。残るはソフト面です。職員が一丸となって頑張ります。

最後に毎回の広報誌でもお願いしていますが、看護師は相変わらず不足しています。もしこの地域で働く事を希望される看護師や、免許を持ちながら就労されてない看護師のご知り合いがおられましたら、ぜひご紹介のほどお願い申し上げます。

公立南丹病院は、職員一同協力し、この地域で救急医療、がん治療、周産期医療など高度医療、地域包括医療の最終拠点病院として充実発展を進めて参ります。今後とも皆様方のご支援をお願いする次第です。



事務局長 <sup>こくふ ゆうしろう</sup> 國府 諭史朗

新緑の若葉が、美しく輝く季節になりました。この時期になると、毎年“いのち”の輝きを実感します。3年前、震災の復興支援で福島県浪江町役場に行った際、岩手県陸前高田の「奇跡の一本松」を見る機会がありました。なにかかもが津波に流された荒涼な風景の中、“いのち”をつなげるためにたった1本で立ち向かっているその姿に、なにか神々しいものを感じました。

ところで、病院は“いのち”を慈しむところだと思います。傷ついた“いのち”、病んだ“いのち”がその輝きを取り戻すところ、また新しい“いのち”を送り出し、“いのち”の最後の輝きを見守るところです。

今回、公立南丹病院の事務局長に就任することになり、改めて“いのち”について考えました。人口が減少する中、3人に一人が65歳以上、5人に一人が75歳以上の超高齢社会を迎えるこの南丹地域で、“いのち”の輝きをサポートしていく、“いのち”を慈しむ病院の役割は、ますます重要になってきます。その一端を支えていくため、微力ではありますが全力を尽くしてまいりますので、なにとぞみな様のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。



看護部長 <sup>なかがわ はるみ</sup> 中川 春美

平成26年4月1日付をもちまして、下村加代子前看護部長の後任として看護部長に就任させていただくことになりました。公立南丹病院は、昭和11年に開設されて以来、地域住民の生命・健康を守る京都府中部医療圏の最終拠点病院としての役割を担う長い歴史を持った病院です。看護部では、地域住民の医療を担う最終拠点病院の看護師であることを自覚し、当院の伝統を引き継ぎながら、常に新しいチャレンジを続け、周辺地域医療の中で一番の看護の提供を目指したいと考えております。

2025年の医療・介護のあるべき姿を目指した社会保障・税一体改革のもと、医療を取り巻く環境は著しく変化しております。平成26年度は診療報酬の改定があり、急性期病院にとっては非常に厳しいものとなっております。その中で本院の看護部としての役割をどのように発揮していくのか考えていかなくてはならないと考えております。

看護部の理念は「豊かな人間性を持ち、人との関わりを育てながら任務が遂行できる看護師を目指す」、「患者さんの人権を尊重し、質の高い看護を提供できるよう専門家として自己研鑽を積む姿勢を持つ」、「地域の中核病院としての役割を理解し、他職種と協調し地域に貢献できる看護を目指す」です。この理念のもと、笑顔で優しく、根拠に基づいた専門的な看護を提供していきます。そして、当院で働いているというプライドと誇りを持つ看護師を育てていきます。

入院患者さんの高齢化が進み、ますます看護師の需要が高まっています。看護師の確保は課題ではありますが、手厚い看護を実践することは可能です。現場での教育を強化し、多職種と協働し医療サービスの向上を図っていきたくと考えております。



### 産婦人科医としての在職36年を振り返って

昭和54年1月1日、京都第一赤十字病院から若い医者（当時32歳）が、年間分娩数が300もある公立南丹病院に、今では考えられないことですが、産婦人科長としてたった一人で赴任してきました。まだまだ病院の規模も小さく、医局の先生方も少なかったのでみんなが一つの家族のようで、暖かい援助をいただきながら、なんとか切り抜けてこられました。一人で奮闘している若い医者（私です）にとっては、非常に心強い先輩達でした。

その頃は土曜日も外来診察があり、妊婦さんたちは半ドン（死語に近いですね）で帰ってくる旦那さんに車で送り迎えしてもらうので、お昼を過ぎてでも大繁盛、土曜日が一番忙しかった記憶が残っています。ほとんど毎日当直のような生活が続きましたが、昭和57年4月、大学からもう一人常勤で来てくれることになり、2人体制になってやっと時間的にも精神的にも少し余裕を持てるようになりました。卵管不妊の治療として当時最先端の顕微鏡下卵管吻合術（マイクロサージェリー）なども試みています。

分娩、手術も漸次増加してきて、産婦人科医として貴重な経験を重ねるにつれ、その責任の大きさに圧倒されそうになることもしばしばでした。特にお産では、母児2人の命が自分の手に委ねられるという本当に逼迫した厳しい状況を何度も経験してきました。夫や家族の強い願いと信頼に支えられ、こうした修羅場を乗り越えて元気に退院される姿を見るたびに、3Kの科と言われても産婦人科医になってよかったと思える瞬間です。

平成9年からは3人体制となり、赴任時より積極的に手掛けていた陰式手術とともに、平成6年から始めた腹腔鏡下手術症例も増加していきました。分娩数も翌年は500を超え、忙しいながらも大変充実した時期でした。丁度私が50歳になった頃で、まだまだずいぶん意気盛んで元気だったんでしょね。それから10年ほど経過した平成21年、「お産難民」などとマスコミで騒がれ、全国的に産婦人科医師不足が社会問題化した時期ですが、当院でもその年の8月から翌年の3月まで常勤医が2人になる事態となり、お産の安全を確保するため一時的にしろ、分娩制限をせざるを得なくなりました。

私が赴任以来、2次救急指定病院の責務として産婦人科に関連したほぼ全ての救急疾患を頑張って受け入れてきただけに、分娩制限という形で住民のみな様方にご迷惑をおかけしたことは今でも悔やまれます。

ところで、赴任して20年ほど経った頃より、私が取り上げたお子さんの分娩に立ち合う機会も増えてきました。その中で「私たち夫婦とも先生に取り上げられたんです」と打ち明けてくれるカップルもでてきました。長い間勤めてきたご褒美のような嬉しい出会いに、産婦人科医でなければ得られない喜びも経験しています。

また、36年もの長い期間中に常勤医として私と一緒に仕事をしてくれた医師は22名にもなります。そうした先生方のほとんどが、ここで得た臨床経験を生かして、産婦人科医として京都市内、府内の第一線で今まさに活躍してくれていることは私の密かな誇りです。そして微力ではありましたが南丹医療圏の周産期医療・婦人科医療に少しでもお役にたてたことは大変幸せでした。臨床医として、救急医療の最前線で、人生の半ば以上の年月を無事勤め上げられたのも多くの医局の優秀な先生方の援助や支援、そして親切で心やさしい職員・スタッフのみな様方の協力なしでは到底考えられません。本当にありがとうございました。

最後に、生命と健康を守る砦としての重責を果たすため、職員が一丸となって研鑽、努力を続けている公立南丹病院が、これからも益々住民のみな様方から信頼され、必要とされる病院に育っていくことを心から願っております。



おおしま かずや  
大嶋 一也（前・副院長）

## 退任のご挨拶

### 42年を振り返って

昭和47年4月に公立南丹病院に就職して早42年が経ち、3月末をもって定年退職させていただく事になりました。このような私が定年まで大過なく勤める事が出来ましたのも、みな様方の温かいご支援、ご指導のお蔭でございまして、心から厚くお礼申し上げます。特に平成11年に事務長に就任してからの15年間は、病院長はじめ多くのおみな様のお力支えをいただき、職務を全うすることが出来ましたこと、大変感謝致しております。

私が就職した頃の南丹病院は、一般病床140床、結核病床80床、伝染隔離病床30床の木造の建物が多くある病院でしたが、幾多の増改築を重ね、現在では、464床を有する名実共に当地域における中核病院となったところであります。この間、沢山の思い出がある中で忘れる事の出来ないのは、やはり、鉄道と国道と将来河川をまたぐ連絡通路を設けた新病棟の建築であり、平成7年から、JRと国道事務所に建築許可の交渉に出向き、平成8年に国道、平成10年にJRの同意を得て、平成14年12月に連絡通路が完成した時には、嬉しくて涙が止まらなかったのを思い出します。

平成15年に新病棟と看護学校が完成し、早11年が経つわけですが、病院経営も順調に推移し、全国有数の黒字病院となっており、これも病院長はじめ全職員の努力の賜物であり、心から敬意と感謝を申し上げます。

公立南丹病院は地域住民の命と健康を守る砦であり、平成26年度には念願の放射線治療機が設置され、平成27年度中に治療が開始となり、当地域でのがん治療の完結ができる病院になる予定でありますので、職員のおみな様には今後とも一致団結して、地域医療発展のために頑張ってくださいと思います。私もこれまで南丹病院で勤務することができ、地域医療に携わることが出来た事を誇りに思い、これからは公立南丹病院のOBとして、また応援団として病院の発展を見守って行きたいと思っております。本当に長い間お世話になりました。



にしだ はやひと  
西田 勇人 (前・事務局長)

### お世話になりました

私は平成26年3月31日をもって定年退職となりました。23年間大過なく務めを全うすることができたのは、未熟な私を支えご指導いただいたおみな様のおかげであり感謝の気持ちでいっぱいです。

私は34歳のときに准看護師のパートとして勤務を始めその後常勤になりましたが、この病院で働くためには正看護師になる必要があると考え公立南丹病院附属高等看護学院に入学しました。卒業してから23年間働かせていただき経験を重ね沢山の学びを得ることができました。

看護診断の勉強をするために有志で勉強会を立ち上げ看護記録に導入したことや、電子カルテ委員に選出され苦手なパソコンを克服するために1年間パソコン教室に通ったことなどが懐かしく思い出されます。

看護部長になってからは、この地域にとって公立南丹病院の果たす役割の重大さを再認識させられました。今年の診療報酬の改定によって公立南丹病院がどのような役割を担っていくのか、地域との連携をどのように強化していくのかなど取り組まなくてはならないことは沢山ありますが、職員が団結し地域の医療・看護の質の向上を目指し努力していけると確信しています。

私は公立南丹病院を巣立ちますが亀岡の地で繋がりをもちながら公立南丹病院の発展を祈っています。長い間お世話になり有難うございました。



しもむら かよこ  
下村 加代子 (前・看護部長)

# 赴任医師のご挨拶

## 麻酔科

医員 <sup>たなか あきこ</sup> 田中 暁子 (平成22年卒)

初めまして。私は卒後5年目を迎えたところですが、初期臨床研修の2年間で南丹病院でお世話になりました。日々、一人一人の患者さんに寄り添い、初心を忘れず安全な麻酔を提供できるよう頑張ります。どうぞよろしくお祈りいたします。



医員 <sup>しまもと さき</sup> 嶋本 早希 (平成23年卒)

2月より、麻酔科で勤務させていただいています。怠けず日々を過ごし、少しでもお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお祈り致します。



## 循環器内科

医員 <sup>うらた りょうた</sup> 浦田 良太 (平成24年卒)

平成26年4月より循環器内科医として勤務します浦田と申します。地域の健康を支える公立病院の一員として、信頼される医療を実践していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。



医員 <sup>しろた</sup> 城田 あゆみ (平成24年卒)

初めまして。循環器内科、城田と申します。希望した南丹病院で働くことができ、大変嬉しく思っています。一つでも多くを学び、みな様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。至らぬ点が多々あると思っておりますが、どうぞ宜しくお願い致します。



医員 <sup>すぎもと たけし</sup> 杉本 健 (平成24年卒)

初めまして。今年度より循環器内科医として働かせていただく杉本と申します。この、あたたかい南丹という土地で働けることを楽しみにしています。一つでも多くのことを学び、一つでも多くのことを還元できたらと思っています。どうかよろしくお祈り致します。



## 脳神経内科

部長 <sup>まきの まさひろ</sup> 牧野 雅弘 (昭和59年卒)

長い間、神経内科臨床にどっぷり浸かって過ごして参りました。今までの経験を活かし、南丹の地域医療に貢献できるよう頑張りたいと存じます。専門領域としては特に秀でた領域はありませんが、すべての神経疾患に対応いたします。



医員 <sup>こいずみ たかし</sup> 小泉 崇 (平成19年卒)

この4月より赴任いたしました脳神経内科、小泉と申します。脳卒中を始めとした急性期疾患から変性疾患等の慢性疾患にわたり、地域の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお祈り致します。



## 腎臓内科

医員 <sup>あした のりこ</sup> 芦田 倫子 (平成24年卒)

初めまして。腎臓内科でお世話になります芦田と申します。何分初めてのことばかりで、いろいろご指導いただく事かと存じますが、どうぞ宜しくお願い致します。



## 消化器内科

医員 <sup>いしだ つぎたか</sup> 石田 紹敬 (平成24年卒)

本年度より消化器内科に勤務します。まだまだ不慣れなところも多くご迷惑をお掛けすることがあるかと存じますが、精一杯努力させていただきますので宜しくお願い申し上げます。



# 赴任医師のご挨拶

## 外科

部長 福田 賢一郎 (平成8年卒)

前任の済生会滋賀県病院では、腹腔鏡下胃切除などを中心に、消化器・一般外科を担当していました。その経験を活かして、癌から救急医療まで幅広く南丹の地域医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。



医員 葛原 啓太 (平成24年卒)

研修医としてお世話になっていたこの病院で外科医として働くことができうれしく思います。南丹地域の健康にすこしでも貢献できるように精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



## 産婦人科

医員 佐々木 綾 (平成20年卒)

京都府立医大産婦人科より赴任しました佐々木綾と申します。昨年までは大学院生として婦人科疾患である子宮内膜症に関し研究しておりました。今後は産科・婦人科とも女性の目線で細やかに対応させて頂けたらと思っております。



医員 大坪 昌弘 (平成21年卒)

京都府立医大付属病院より赴任しました。産婦人科医としてはまだ未熟者ですが、よろしくお願い致します。



## 歯科・口腔外科

医員 大塚 有美 (平成23年卒)

本年度より公立南丹病院歯科口腔外科に所属となりました、大塚有美と申します。患者さんのニーズを理解し、地域医療の向上に努めるよう努力していく所存です。宜しくお願い申し上げます。



## 小児科

医長 大内 一孝 (平成16年卒)

平成26年4月より小児科医師としてお世話になります、大内一孝と申します。小児科医になって9年目で、これまで京丹後市、舞鶴市、福知山市で勤務して参りました。南丹での勤務は初めてであり不安なことが多いとは思いますが、よろしく願い申し上げます。



医長 後藤 幸子 (平成16年卒)

4月から公立南丹病院に赴任いたしました後藤です。昨年までは大学病院で小児の血液腫瘍の診療に携わっていました。南丹病院の小児科は、急性期疾患が多いということで、気持ちを新たに頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



## 眼科

副部長 稲垣 香代子 (平成13年卒)

本年3月まで、大阪の済生会吹田病院で3年間勤務しておりました。皆様のお役に立てますよう頑張ります。よろしくお願い致します。



医長 吉田 祐介 (平成14年卒)

この度6年ぶりに南丹病院に勤務させていただくこととなりました。久しぶりにお顔を拝見させていただく方も多く、大変うれしく思います。以前の就任時より少しでもお役に立てたらと頑張りますので、よろしくお願い致します。



## 脳神経外科

医員 山本 紘之 (平成24年卒)

このたび5月1日付で南丹病院に新たに赴任しました山本と申します。まだまだ未熟な身ではありますが、南丹地域の皆様のお役に立てるよう精一杯取り組んで参りますので何卒よろしくお願い致します。



## 血液内科 *Hematology*

血液内科部長 おかもと あきお 岡本 昭夫

血液内科は、火曜日と木曜日の外来と入院治療を私が担当しております。一口に血液の病気といっても、鉄欠乏性貧血のように診断から治療まで外来で容易に済んでしまう疾患から、急性白血病のように入院で強力な抗がん剤治療を要するものまで様々な病気が含まれます。

心臓や胃腸の病気に比べて知名度の低い病気が多いので、まず主な病名を列挙してみましょう。良性・悪性に分けて並べると次のような病気が当院で対応しているものになります。鉄欠乏性貧血と白血病以外は余り聞き覚えがない方も多いのではないのでしょうか。

### ■良性疾患

- ①赤血球系：鉄欠乏性貧血、ビタミン欠乏性貧血、再生不良性貧血、多血症
- ②白血球系：薬剤性、膠原病など二次性白血球減少
- ③血小板系：特発性血小板減少性紫斑病、本態性血小板増加症

### ■悪性疾患

急性白血病、慢性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫

以前から再生不良性貧血を除く良性疾患はほとんどの場合、通院で治療が可能でしたが、最近は悪性疾患に分類される疾患も抗がん剤の進歩や外来点滴室の充実などで、主に外来で治療が行われる疾患も増えています。

例えば慢性骨髄性白血病のように昔は骨髄移植しか助かる方法の無かったものが、画期的な内服薬の出現で通院治療のみで長期の生存が可能になった病気もあります。その結果、ある程度の制限はあっても発病前と同じように仕事や家事を続けながら治療を受けることが出来るケースも増えています。

逆に急性白血病や悪性リンパ腫の一部は、依然として長期の入院治療が必要になることが多く、さらに骨髄移植や放射線治療など当院の設備では実施できない治療が必要な場合もあり、京都市内の病院へ協力を依頼しながら診療を進めています。

健康診断などの血液検査で無症状の時点で偶然病気が見つかる場合もありますが、倦怠感、息切れなどの貧血症状や皮下出血や鼻血などの出血症状、繰り返す発熱やリンパ節の腫れなどの症状をきっかけに、診療所や病院を受診し、上記のような各種血液疾患が疑われご紹介頂くことも多くなっています。

「これまでより疲れやすくなった」、「息切れがする」、「知らない間に青あざがよくできる」、「口の中に口内炎や血まめがよくできる」、「首やわきの下、足の付け根のリンパ節が腫れて小さくならない」などの症状がある場合は、ぜひ医療機関で診察と血液検査を受けてみて下さい。



### 豆知識

皆さんは公立南丹病院の「公立」の定義をご存知でしょうか。ご承知のように南丹市、亀岡市、京丹波町の2市1町より構成される一部地方事務組合の公的病院となります。当院が立地している南丹市は平成18年1月に、園部町・八木町・日吉町、および北桑田郡美山町の4町の合併により誕生しました。

京都府は北部から丹後、中丹、南丹、京都・乙訓、山城北、山城南の合計6つの2次医療圏から構成されています。それぞれの医療圏には災害時などに拠点病院となる中核病院が1施設以上指定されており、当院は南丹医療圏の地域中核病院となっています。

この南丹医療圏は当院の救急医療と関わりが深い「京都中部広域消防組合」の構成範囲と同一で、亀岡市、南丹市および京丹波町の2市1町を対象としています。実に京都府の総面積の約4分の1を占める広いエリアとなります。京都府の南丹広域振興局の対象でもあり、この2市1町は医療圏・救急・行政にわたりひとつのコミュニティとなっています。

# 耳鼻咽喉科

## Otorhinolaryngology

耳鼻咽喉科部長 かやの 栢野 かおり 香里

平成26年2月現在、2名の常勤医（栢野香里、鯉田篤英）と2名の外来担当医（火曜日は布施慎也、水曜日は松本幸江；昨年まで常勤医でした）で診療を行っています。高い診療レベルで何でもできる耳鼻咽喉科を目指し、時には京都府立医科大学耳鼻咽喉科医局より応援を得ながら、幅広い診療を行っています。

具体的には鼓膜穿孔・慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎に対する鼓膜形成術・鼓室形成術、滲出性中耳炎の鼓膜チューブ留置術、突発性難聴や顔面神経麻痺のステロイドパルス療法、めまい・耳鳴りの薬物治療、老人性難聴の補聴器適合・相談、副鼻腔炎（蓄膿症）の鼻内視鏡手術、花粉症・アレルギー性鼻炎の薬物治療や外来レーザー手術・粘膜下鼻甲介骨切除術、鼻中隔彎曲症の矯正術、扁桃炎の薬物治療や扁桃摘出術、いびき・睡眠時無呼吸症のCPAP（持続式陽圧呼吸）療法や咽頭形成術、喉頭ポリープ摘出術、唾石症の摘出術、頭頸部腫瘍（鼻・副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、耳下腺、顎下腺、甲状腺の良性・悪性腫瘍など）の摘出術、顔面外傷（鼻骨、眼窩壁、上顎骨、頬骨骨折など）の整復術などです。年間約200例の手術を行っています。

頭頸部癌の治療は早期癌（早期舌癌・喉頭癌では約1週間入院でのレーザー切除手術）から再建手術を要するステージⅢ、Ⅳの進行癌まであらゆる病期の治療

に対応していますが、放射線治療が必要な場合は関連施設に紹介させていただいています。また抗がん剤治療や最新の分子標的薬治療も行っています。近年は耳鼻咽喉科内視鏡の性能と診断能力が向上し、非常に早期の癌の発見も可能になってきています。

頭の中と眼をのぞいた頭部と頸部の疾患全部が耳鼻咽喉科・頭頸部外科の守備範囲です。難聴、めまい、耳鳴り、耳だれ、鼻水、鼻づまり、口内炎、声がれ、のどの痛み、違和感、飲み込みにくさ、くびのしこり、腫れなどの症状のご相談は是非当科を受診してください。



## 「第116回 日本循環器学会近畿地方会」における学生・初期研修医セッション優秀演題賞の受賞

研修医 くぼた ひろし 窪田 浩志

研修医の窪田浩志です。私は長岡京市の出身ですが、地域医療の第一線を担い、医療レベルの高さでも有名な当院での研修を志望しました。毎日、指導医の先生方、職員の皆さん、患者さんから多くのことを学びながら研修中です。

このたび平成25年11月30日に大阪市で開催されました第116回日本循環器学会近畿地方会で発表し、優秀演題賞を受賞しました。これを励みに、少しでも患者さんのお役にたてる医師をめざして努力する所存ですので、宜しくお願いします。



## 「特別講演」

副学校長 齋藤 美代子 さいとう みよこ

看護学校では、卒業を前に特別講演会を実施しています。平成 25 年度の特別講演会は、シュタイナー教育の実践と教育活動をされている森章吾先生を迎え、「観察力を育てることで開ける世界」というテーマで講演を頂きました。たとえば「ミカンとレモンの比較」。外見だけでなく産地の違いや生育状況をも踏まえ観ることで今の状況が作り出されているという講演を聴き、学生からは、「今ある患者さんの状態は今までの経過や、いろんな視点からとらえる必要がある」今後の看護へ結び付けていきたいとの感想が聞かれました。



## 「ナイチンゲール像」の寄贈

初代ナイチンゲール像（左）は、昭和 58 年に公立南丹病院附属高等看護学院卒業生の方々に寄贈いただきました。実習認定式をはじめ様々な式典で活躍してきました。今回平成 25 年度卒業生から 2 代目ナイチンゲール像（右）の寄贈を受けました。平成 25 年度卒業証書授与式から親火を持ち式典に参加してくれました。



## 「除幕式」

平成 25 年度卒業記念にナイチンゲール像を新調しました。今回発表の機会として除幕式を行いました。

南丹のナースの卵である後輩の皆さんには、これからもこの学校の伝統を引き継いでもらい末永く大切にいただけたらと思います。（卒業生一同）



## 「37年間を振り返って」

かわだ      みのる  
河田      実（前・放射線技師長）

このたび、37年間勤務させていただいた公立南丹病院を退職しました。

振り返ってみますと、昭和52年4月に公立南丹病院に就職した当時の放射線科は、西村技師長、湯田、山本両先輩の3人と私と同時に就職した川勝君の5人でした。

放射線機器も一般撮影装置とTV装置のみでしたが、病棟及び診療棟の増改築が終了したばかりであり、患者さんも増加の傾向の時でもありました。

そんな折、昭和56年12月まだ一般に多く普及していなかった全身用CT装置を当時の西村技師長が導入されました。余談ですが、臨床用CTは、イギリスのEMI（イーエムアイ）社が昭和42年開発、昭和52年製品化、この開発には、EMI社に所属していた当時人気の高かったビートルズの記録的なレコードの売り上げが、CTスキャナーを含めたEMI社の科学研究資金の供給源と考えられるため、CTスキャナーは「ビートルズの最も偉大な遺産」とも言われています。

そのCT装置も大きく進歩をとげ、現在では平成19年に4代目の64列検出器型CT（MDCT）を導入し、数秒で全身撮影ができる患者さんにやさしい高精度の画像を提供しています。

また私は、新病棟に移転した平成元年11月より新設された核医学検査RI（ガンマカメラ）に15年間専従していましたが、この検査には他の各種検査機器にないデリケートさを痛感したものでした。さらに平成6年に1代目、平成13年に1.5テスラMRI装置を導入し、脳梗塞、脊椎系等の病変の診断に威力を発揮しています。

また、平成15年6月に電子カルテとオーダーリングシステムが導入され、一気に画像のデジタル化が進みました。私が技師長を拝命した平成16年には、5月に新しく導入したFPD型心臓血管



撮影システムを用いて、第5回京都循環器ライブデモ（KCJL2004）が行われ、最新のデジタル画像が京都市内まで配信されました。また、平成21年電子カルテ更新を期にPACS（電子画像管理システム）を導入し、デジタル画像配信（フィルムレス化）を進めました。それにより、電子カルテ上で全ての撮影画像を閲覧することが可能となりました。このように、医療は大きく進歩を遂げ、当院におきましても施設の増改築、最新の医療機器の整備、それに伴う医療スタッフの増員がなされてきました。

放射線科におきましても、現在14名の技師が種々の撮影装置を患者さんにやさしく使いこなすべく、日々研鑽しているのを嬉しく思います。それにもまして、このように放射線科がアナログからデジタルへ急速に移行、発展する時期に微力ながら携わり、手助けが出来たことは一つの誇りに思います。

来年度には、放射線治療装置（リニアック）の導入も決定し、最新の高度医療の提供できる地域の中核病院として、またがん診療連携病院として地域住民の命と健康を守り続けて頂きたいと思えます。私も南丹病院OBとして応援しています。ありがとうございました。

## 「第91回 救急活動事例研究会」のご報告 (第36回 救急医療・集中治療フォーラム)

公立南丹病院では、南丹市・亀岡市・京丹波町の2市1町の医療圏を担う京都中部広域消防組合の皆さんと、救急搬入された症例の事例検討を行い情報を共有し、地域の救急医療の向上を目指し、3ヶ月毎にフォーラムを開催しています。

公立南丹病院看護部(救急部) せきもと みちよ 関本 充代

今回、救急事例検討会で、トリアージについての理解を深めるために、昨年研修で勉強したJTAS(緊急度判定支援システム)を発表させていただきました。

これは、救急などの現場でどの人を優先的に診ないといけないかを判定する日本でも取り入れているシステムです。

中部広域消防の皆さんも検討会に出席され、この内容が救急搬送の選定に役立てればと考えております。

検討会后、救急隊員の連携を強化するために懇親会を行いました。今後も地域医療の向上に努めたいと思います。



JTAS: Japan Triage & Acuity Scale/カナダで運用中のCTASをもとに日本版「救急外来でトリアージ」に応用したシステム

 なかがわ ひろき 京都中部広域消防組合消防本部 消防課警防係長 中川 博樹

京都中部広域消防組合は、南丹地域2市1町の住民の皆さまに安全・安心をお届けするため、184名の消防職員が一丸となり、昼夜を分かたず消防・救急・救助等の災害対応に努めています。

特に救急業務は、24時間いつでもどこでも住民の皆さまの元へ駆け付け、適切な応急処置をしながら、病院に搬送するという社会システムの一環を担っており、日々の訓練と高いレベルでのモチベーションの維持が必要不可欠となっています。

このようなことから、救急隊員のスキルアップの場として、また、お互いの仕事を理解するための交流の場として、平成8年5月から公立南丹病院において、「救急活動事例研究会」を共催しております。本研究会は、「救急医療・集中治療フォーラム」という病院内での確たる位置付けを得て、事例検討や研究発表等で毎回熱気あふれる議論が交わされています。

開催当初は、1~2名の指導医師と数名の救急隊員がひとつのテーブルを囲む井戸端会議スタイルで始まりましたが、すでに第91回目を迎えるに至り、病院のコメディカルスタッフの皆さまも加わり、病院挙げての取組として定着させていただきました。

今後は、救急隊員のよりどころとして、そして組織の垣根を越えて、一層顔の見える関係を構築できればと願っています。



## 平成25年度 「第3回 緩和ケア講演会」

緩和ケアチーム いまにし のりゆき  
今西 規介

当院は、京都府がん診療連携病院として、京都府南丹保健所・船井医師会・亀岡市医師会・京都府看護協会口丹地区と共催し、地域住民の方を対象とした緩和ケア講演会を毎年開催しています。

今年度は、平成26年1月18日(土)にガレリアかめおかにて、宝塚市立病院緩和ケア病棟チャプレン・カウンセラーの沼野尚美氏を講師にお迎えし、「共に支え、共に生きる」と題し、ご講演いただきました。

沼野氏は、病院薬剤師から病院チャプレン(病院に従事する牧師)とカウンセラーに転職し、28年前より現在にいたるまで9つのホスピスで勤務し、3,000人以上の方々との生と死に関わってこられた、いわば心のケアのスペシャリストです。がん患者とその家族の精神的援助と宗教的援助を専門とされておられ、医療従事者向けの研修や地域住民向けの講演活動を全国的に行われています。

当日は、地域住民、医療・福祉関係者など約180名の参加がありました。沼野氏は、親しみやすい口調で、緩和ケア病棟での患者・家族との関わりや経験をもとに、「人生の最期を豊かにするもの」、「共に生きるためのポイント」などをとても分かりやすく話されていました。参加された方は、それぞれメモを取るなどして興味深く聞き入っておられ、「生きる」ということ「人生の最期」ということについて、改めて考えるきっかけになったと思います。今後も、このような緩和ケア講演会の企画を予定しておりますので、是非ご参加下さい。



## 「第3回 公立南丹病院緩和ケア研修会」

緩和ケアチーム うすい ひろこ  
碓井 寛子

2月9日(土)・11日(月)の2日間、公立南丹病院第2病棟5階講堂にて「第3回公立南丹病院緩和ケア研修会」を開催しました。この研修会は、痛みをはじめとしたがんによる苦痛に対する、基本的な緩和ケアの知識・技能・態度を修得し実践できることを目的としています。

今回も医師(11名)だけでなく、看護師(4名)や薬剤師(2名)等、多職種が参加し講義やグループワークを通して知識や技能の修得を行いました。コミュニケーションのロールプレイでは、グループで良かった点やこうした方がもっと良かったという点を伝えあいました。他者から感じた事を伝えてもらうことで講義だけでは得られない気づきがあり、「自己のかかわりを見つめ直す事ができた」、「明日からの現場に役立てていこうと思う」といった意見も聞かれました。

また多職種の立場の違う発言によって、多角的に視野が広がり、今後の患者さんやご家族の「その人らしさ」や「尊厳のある人生」を支える引き出しが増えました。

今後も緩和ケアに関する研修会を開催し、地域のニーズに応えられるよう、緩和ケアの普及に努めていきたいと考えます。ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 近隣の連携医療機関の先生方

ふじわら小児科内科医院  
ふじわら ふみひろ  
藤原 史博

### 「開業して15年」



平成10年10月に亀岡の南郷公園前で小児科内科医院を開業して15年になりました。開業当初は小児科として地域での子どものかかりつけ医を地道にやっていたらと思っていました。しかし、ひとりひとりの子どもと関われば関わるほど、地域で

子どもを診るということは、父、母そして場合によってはおじいさん、おばあさんという家族全体をも診ることなのだ、改めて痛感させられました。

内科も改めて学びながらの試行錯誤の開業以来、公立南丹病院の小児科の先生方はもちろん全科の先生方には、救急、入院診療、精密検査と困ったときは全面的に助けていただき本当に感謝しています。勤務医から開業医へと立場がかわった今、バックアップして頂ける公立南丹病院という中核病院の重要性、有難さを日々実感しながら診療しています。

さて、私には医師として様々なことを教わりお世話になった恩師と呼べる先生が3人います。そのひとりが、7年間勤務していた公立南丹病院の梶田芳弘院長です。在籍中は、患者に対する医師としての心構え、病院の臨床医でもリサーチマインドを忘れないことなど、たくさんの事を毎日の実践を通して厳しく教えていただきました。

また、看護師、薬局、臨床検査科、事務の方々にはチーム医療の大切さを学びました。開業して15年経った昨今、マンネリズムのせいか、体力も落ち、気力も萎えてしまいがちですが、何とか頑張れるのも、公立南丹病院での経験のおかげと感謝しています。今しばらく地域で診療を続けたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひします。

鎌田整形外科医院  
かまだ ゆういちろう  
鎌田 雄一郎

### 「南丹病院での11年間」



20年以上前ですが、39歳(若かった…)の時、南丹病院に整形外科部長として赴任しました。当時の医師数は現在の3分の1〜4分の1でした。のどかな時代で、休日には院内のテニス部の合宿に参加したり、夕方勤務

時間が終われば先輩の先生に囲碁の指導をうけたり、と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今も昔も地域の最終病院ですので、患者さんの数は当時から極めて多く、2〜4人という少人数の整形外科医で外来、病棟、手術と朝から夜まで対応していたのが懐かしく思われます。リウマチ科の創設や、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)不在だったリハビリテーション科の充実には多くの皆様の協力を得る事ができました。今でも感謝しております。

10年前に南丹病院を離れ、7年前に亀岡で開業しましたが、南丹での日々が現在の診療の大きな力となっているのをつくづく感じています。

関節リウマチ、骨粗鬆症、スポーツ整形など整形外科の守備範囲は広いです。検査・手術・救急時の対応など、南丹病院には整形外科は勿論各科の先生方に本当にお世話になっております。

真の病診連携のためにもレベルの高い診療内容を維持したいと、当院スタッフ一同も日々努力しています。今後ともよろしくお願ひ致します。



## 「就業フェア」

看護部 <sup>みしま</sup> <sup>てるよ</sup> 三嶋 照代

看護部では、看護師不足の中、地域住民の皆様に安全・安楽な看護を提供できるよう日々取り組んでいます。今年1月、看護師確保のため「ナース専科ナビ」という看護師募集サイトに加入しました。加入後全国より5件の問い合わせを頂いており情報提供をしています。

平成26年3月1日、ナース専科合同就職説明会がきらっとプラザ（京都産業会館）でありました。京都府内の病院施設の他にも滋賀、東京など18施設が参加しました。当院ブースには、京都府内の看護学校や大阪の看護学校の学生達の訪問がありました。新人教育や修学資金についての関心が高く、熱心に質問されました。

患者中心の医療・看護が提供できるよう、超高齢化社会に向けて看護職員（看護師・准看護師・助産師・看護助手）と医師・コメディカルなど当院の医療職者全員がチーム一眼となって地域医療を守っていくために頑張っています。職業体験ができるインターンシップ制度も行っています。公立南丹病院の見学をご希望の方は看護部にご連絡下さい。



## 「認知症疾患医療センター」に指定されました

当院は南丹医療圏で認知症の早期発見、早期診断、早期対応を行い、重症化を防止していくため、平成26年3月1日付で京都府より「認知症疾患医療センター」の指定を受けました。

国の統計によれば、65歳以上の高齢者のうち約15%が何らかの認知症を患っておられ、約10%が介護保険制度を利用している認知症の高齢者（日常生活自立度Ⅱ以上）といわれています。南丹医療圏でいえば、65歳以上の高齢者約4万人のうち約6千人の方が認知症を患っておられると推計され、これらの患者さんの生活をどう支えていくのかが大きな問題となっています。

当院の「認知症疾患医療センター」では、認知症の鑑別診断、身体合併症と周辺症状への対応、専門医療相談等を実施するとともに、他の福祉機関や病院と連携しながら認知症に対する治療のお手伝いをしています。

認知症になってもいつまでも尊厳を持って安心して住み慣れた地域で暮らせるようお互いに支えていきましょう。



## 初診時の選定療養費改定のお知らせ

当院では国や自治体が推進している医療機関の機能分担を図っていくため、日常の診療（特に初診）については、お近くの診療所等の医療機関で受診いただくようお願いしています。まずお近くの診療所等におかかりいただいた上、必要に応じて紹介状をお願いしていただき、その紹介状を持参して当院に受診いただきますようお願いいたします。

**平成26年7月1日より、紹介状をお持ちでない初診の方は「初診に係る選定療養費」として 別途2,160円（消費税込み）をいただくことになります。**

## 公立南丹看護専門学校オープンキャンパスのお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校を知っていただくことを目的とし、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。申込方法・申し込み期間等については5月上旬に、ホームページ等でお知らせします。



### オープンキャンパス

日時：平成26年8月8日（金）13：00～  
学校紹介・体験学習・在校生との交流・個別相談等

### 学校見学会

日時：平成26年8月30日（土）10：00～  
平成26年11月1日（土）10：00～  
学校紹介・個別相談等

〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1  
TEL：0771-42-5364 FAX：0771-42-5422  
<http://www.nantan-kango.ac.jp>

## 看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

- 院内保育所が正職員・臨時職員共に利用可
- 寮(正職員のみ)利用可(月額10,480円)

〒629-0197  
京都府南丹市八木町八木上野25番地  
公立南丹病院 総務課人事係

TEL 0771-42-2510 (代)

までお気軽にお問い合わせ下さい。

詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。 <http://www.nantanhosp.or.jp>



### 編集後記

公立南丹病院の広報誌に携わって、はや一年。地域のみな様と、南丹病院を結ぶ架け橋になればと願っております。

新年度となり、公立南丹病院も新たなスタートとなりました。診療報酬の大幅な改正はありましたが、放射線治療機器の導入等、地域のニーズに沿った病院でありたいと職員一同願っています。広報委員 (M.N)

